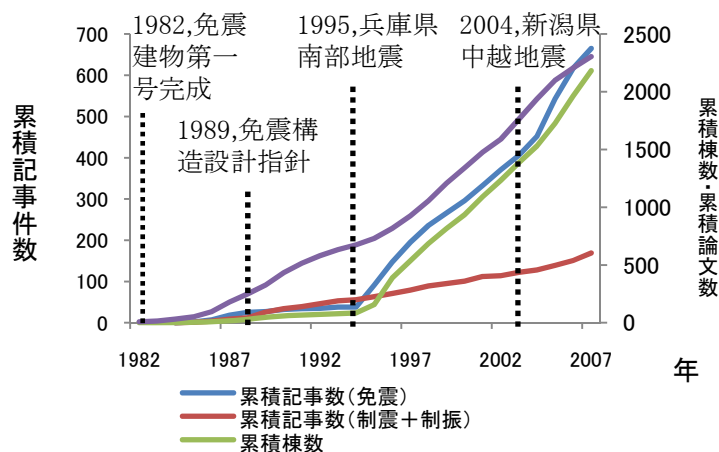
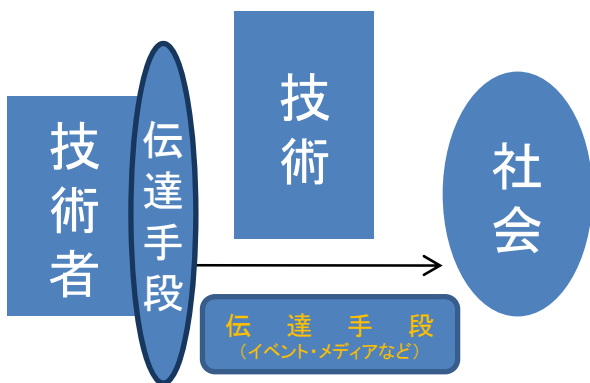


免震技術の普及に関する調査・分析

金子 遥洵 東京大学工学部建築学科高田研究室4年 (2010年2月作成)



技術者から社会への技術伝達モデル

「免震」の語を含む新聞記事数・論文数とイベント

研究の目的

技術の普及には社会に客観的に評価されることが前提である。技術者は客観的評価が行われるよう社会への普及まで意識することが必要である。そこで、既に普及した技術が社会に受け入れられる様子をモデルを用いて表し（左図）、技術者と社会との間にある情報の伝達手段を調査した。

建築分野で社会に受け入れられた技術である免震技術を調査・分析対象として選択し、技術者による社会への伝達手段として1)イベント（地震・設計指針など）および2)メディア（新聞記事・論文）が免震建物の棟数の変化にどのような影響を与えたか調べた（右図）。結果を以下にまとめる。

- 1) イベントについて：建物棟数が急激に増加した要因として、ガイドラインである免震構造設計指針の発行により免震技術が技術者に普及し多くの企業で免震建物の設計ができるようになったこと、幾度かの地震をきっかけに免震建物の安全性が検証されたことが挙げられる。
- 2) メディアについて：論文と新聞記事を調査した。論文数と新聞記事数を調査した。論文数と記事数の増加には別の要因が寄与している。論文数に関して免震研究は95年までにゼネコンを中心として行われ一段落したこと（研究の成熟）、新聞の免震記事数と棟数の増加に直接の関係は見られなかったが記事により関心が強まり導入事例が増えた可能性はあること（関心）が要因となっていることが読み取れた。

上の調査は伝達手段による技術の普及を定性的に評価し、普及に必要な要素を挙げただけにとどまったが、今後社会が客観的に評価するとはどういうことか把握するためにはこうした項目を定量的に把握する必要がある。

主な成果

- 1) 金子遥洵：免震技術の普及に関する調査・分析, 東京大学工学部建築学科卒業論文, 2009. 12